

令和3年第1回定例  
夕張市議会会議録  
令和3年3月17日(水曜日)  
午前10時30分開議

◎議事日程

第1 議案第1号ないし議案第7号、議案第9号  
及び議案第12号(別紙議案内訳のとおり)  
及び市政執行方針、教育行政執行方針に対  
する大綱質問

◎出席議員(8名)

君島孝夫君  
小林尚文君  
大山修二君  
本田靖人君  
千葉勝君  
熊谷桂子君  
高間澄子君  
今川和哉君

◎欠席議員(0名)

午前10時30分 開会

●議長 小林尚文君 これより、令和3年第1回  
定例夕張市議会第3日目の会議を開きます。

●議長 小林尚文君 本日の出席議員は8名全員  
であります。

●議長 小林尚文君 本日の会議録署名議員は、  
会議規則第125条の規定により

今川議員

君島議員

を指名いたします。

●議長 小林尚文君 この際、事務局長から諸般  
の報告をいたします。

●事務局長 佐藤浩一君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員の一覧につき  
ましては、お手元に配付のプリントのとおりであり  
ます。

以上で、報告を終わります。

「別紙」

市長 厚谷 司 君

教育長 小林 広明 君

選挙管理委員会委員長

柳 沼 伸 幸 君

農業委員会会長 後藤 敏一 君

監査委員 西田 洋二 君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

理事 大友 秀樹 君

総務課長 芝木 誠二 君

地域振興課長 福富 貴大 君

財政課長 押野見 正浩 君

税務課長 池下 充 君

建設課長 鈴木 茂徳 君

土木水道課長 阿部 充雅 君

市民課長 佐藤 学 君

保健福祉課長 平塚 浩一 君

生活福祉課長兼福祉事務所長

掘 靖樹 君

消防長 増井 佳紀 君

消防次長 石黒 友幹 君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の  
職・氏名

教育課長 寺江 和俊 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者  
の職・氏名

事務局長 芝木 誠二 君

◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・  
氏名

事務局長 福富 貴大 君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 三浦 護 君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長	佐藤浩一君
書記	山下倫弘君
書記	相澤由貴君

●議長 小林尚文君 本日の日程は、お手元に配付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたします。

●議長 小林尚文君 日程第1、議案第1号ないし議案第7号、議案第9号及び議案第12号、以上9議案一括議題といたします。

これより、昨日に引き続き、大綱質問を行います。

本日の質問者は、千葉議員、高間議員、今川議員であります。

それでは、千葉議員の質問を許します。

千葉議員。

●千葉 勝君（登壇） 千葉勝です。

通告に従いまして、質問いたします。

最初に市政執行方針の高校魅力化事業の取組の方向性についてお伺いいたします。

夕張中学校を卒業した生徒の夕張高校への進学は、平成23年の87%をピークに年々減少し、平成27年には57%の進学者で39名まで減少し、1学年1学級となりました。

また、市内中学生のアンケート調査によると、夕張高校への進学希望が3割しかないことも判明いたしました。そのため、夕張高校の廃校、子育て世帯の流出といった危機感から夕張高校魅力化プロジェクト事業が開始されたと認識しております。魅力化事業は、資格取得などの各種補助金制度を創設し、平成30年度からは入学支援金、海外短期留学、マンツーマンオンライン英会話がスタートしました。また、公設塾キセキノも開設され、夕張高校においても進学と就職に対応したコース制を取り入れ、生徒を受け入れてきましたが、昨年3月に卒業した夕張中学校から夕張高校へ進学した生徒は21名、令和3

年度の夕張高校への出願者は定員40名のところ16名となり、夕張中学校からの進学希望者がついに20名を切る状況となりました。夕張高校への進学希望者の減少の要因として、財政破綻後の小・中学校統廃合により、新たな人とのつながりを求めて市外への高校に行く傾向があることから、夕張中学校からの進学率が年々低くなってきました。

また、市外から通学するための交通手段の不足、外部からの受入体制が整っていないことなどから、生徒確保も困難な状況になっているのが要因と考えられます。

そこで1点目の質問ですが、平成28年度より高校魅力化事業を進めてきましたが、今回夕張高校魅力化事業の基本的理念を設定し、理念を実現するために、4つの柱、取組の方向性を設定した理由等について市長にお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君（登壇） 千葉議員の夕張高校魅力化事業の取組の方向性に関するご質問についてお答えをいたします。

夕張高校魅力化事業につきましては、これまで従前の取組を継続して実施してきたところでございますが、道立高校である夕張高校に本市が支援を行う意味や、財政再生団体でもあります本市が本事業に多額の予算を投じる意味について改めて認識をし、より効果的かつ効率的な事業とするため、このたび明確な理念を設定するとともに、事業の進め方について考え方を整理したところでございます。

市政執行方針でも申し上げましたが、今後は故郷である夕張に誇りと感謝の気持ちを持ち、どのような状況にあっても幸福に生きていける力を身につける。また、多くの方から支援をいただいている夕張にとって人材の育成、輩出を通じ社会への恩返しを図るという基本的な理念の実現に向けて、基礎学力の向上、夕張とのつながり強化、時代に沿った教育の推進、多様な価値観の醸成、この4つの柱を軸に取組を進めて参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
千葉議員。

●千葉 勝君 昨年3月の定例市議会において、本田議員の質問の答弁で市長は、夕張高校の生徒の確保で市外からの積極的な生徒の受入れは検討すべきものと考えますが、具体的な制度、財源なども踏まえながら関係する方々と幅広い議論をして参りたいと考えていますと市長は答えております。

そこで、今回、新たな夕張高校魅力化プロジェクトを検討するに当たって、今後新たな整理の下、高校魅力化事業が進められていくと考えますが、市外からの積極的な生徒の受入れについてどのようにお考えなのか、市長の見解をお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

生徒数確保という観点で市外からの積極的な生徒の受入れにつきましては、その可能性を検討することは様々な選択肢のうちの一つであると、そのように考えてございます。

一方で、限られた財源の中、この事業を高校生にとっても、それから夕張市、本市にとっても意義のあるものとするためには、まず地域の子どもたちに対しまして4つの柱に沿った取組を着実に推進し、理念の実現を図っていくことが重要でございます。そうしたことが夕張高校の魅力、地域の魅力となつて、市内外の子どもたちの夕張で学んでみたいという機運の醸成へとつながり、よい環境を生んでいくことになるのではないかとそのように考えてございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
千葉議員。

●千葉 勝君 このまま生徒が20名を切ると、夕張高校の廃校も考えられるのではないかと私は危惧しておりますので、これからも市外からの生徒が夕張高校に希望を持っていただくように、幅広い議論を市長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお

願いいたします。

次に、2点目の質問でありますけれども、公設塾「キセキノ」の質の向上についてお聞きいたします。

公設塾「キセキノ」は、市内における高校生の学力の向上及び目標進路の実現、社会で活躍する人材の育成、課題先進地として、全国から注目される夕張の地で多様な学び、そして交流を通して次の社会の形を探求するという目的で設置されたと認識しております。令和3年度において、夕張高校魅力化プロジェクトの理念を実現するための4つの柱、取組の方向性のうち、基礎学力の向上として公設塾キセキノの質の向上を図っていくとの方針であります。その具体的な内容についてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員の公設塾「キセキノ」の質の向上に関するご質問についてお答えをいたします。

公設塾「キセキノ」につきましては、平成30年4月のオープン以来、地域おこし協力隊制度を活用いたしまして講師の方をお迎えし、運営を行って参りました。令和3年度からは、この地域おこし協力隊制度の活用による運営を改めまして、民間の事業者による運営を委託することとし、令和3年度夕張市一般会計予算案において、所要の経費を計上したところでございます。

授業内容など詳細につきましては、委託先の事業者が決定され次第、連携を密に図りながら詰めていくこととなりますけれども、今後はこれまで同様の個別学習指導と併せてオンラインによる映像授業の導入も図り、より効果的かつ効率的な公設塾の運営を行っていく予定としてございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
千葉議員。

●千葉 勝君 安定した運営の確保並びに等々をするために、4月から民間の塾経営の会社に運営を委託する予定であるというような答弁でありました。

そこで、令和元年9月の第3回定例市議会におい

て私が質問したのですけれども、公設塾キセキノに係る事業活動の評価に関する答弁で、評価についての時点でということは今お約束申し上げられませんが、その必要性については認識していますので、今後この「キセキノ」について検討していく際に、ただいまいただきましたご意見も反映されるよう議論を進めて参りますと市長は答えております。

今回、公設塾「キセキノ」の質の向上を図っていくという方針を出すに当たり公設塾の現状についてのどのような分析をしているのか、市長の見解を伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問についてお答えをいたします。

公設塾に通う生徒のみなさんが安心をして学習を進め、自らの目標を実現していくためには、安定的な公設塾の運営が必要不可欠であるということとは変わりなく考えております。

一方で、現行の公設塾におきましては、主に英語を担当する講師について欠員となっております、募集をしても採用まで至らない状況が長く続いていたところでございます。また、残る2名の講師につきましても、その任期が今年度末となっていること、全ての科目の指導及び運営全般を2名で行わなければならないことなど、安定的な公設塾の運営には課題があったところでございます。

こうした状況を踏まえまして、このたび専門家である民間の事業者に運営を委託することにより、課題の解決を図りますとともに、よりきめ細かな指導の実現を目指そうとするものでございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 分析するに当たって一定程度の課題があったけれども、今後民間の塾経営者に委託することによってそれらの課題が解決されるということによろしいですか。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

ただいまの課題の解決に向けて、この令和3年度以降は、先ほど申し上げましたように4つの柱の中、とりわけこの公設塾につきましては個別の指導と、それからオンラインを活用することによって、それぞれ生徒さんの目標達成に向けた対応を図れるよう取り進めて参りたいと考えております。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 それでは、現在講師をしております地域おこし協力隊の任期が、先ほど市長からもありましたように3月31日で終了します。2人の処遇についてどのようにお考えになっているか、お伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問についてお答えいたします。

現在いる講師の方につきましては、引き続き講師として働くご希望があれば、その旨を委託事業者にお伝えする、そのように考えてございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 その件につきましては、よろしくお願ひいたします。

本年3月5日の行政常任委員会の夕張高校魅力化プロジェクトについての報告で、これからは真に高校生のためになる取組を行いながら理念の実現が図られるよう、現行の取組の見直しや強化を図っていくとの報告がありました。夕張高校へ進学した生徒の中には、高校魅力化プロジェクトがあるから進学した生徒もいるのではないかと考えます。今後、夕張高校魅力化プロジェクトの取組の見直しを行う際に、生徒及び保護者からの意見も聞いていただき、真に高校生のためになる取組の見直しをご検討いただきますよう、お願ひ申し上げます。

また、今回の高校魅力化事業の新たな方向性につ

いて、市民への情報発信もよろしくお願い申し上げます。

続いて言ってよろしいですか。

●議長 小林尚文君 進めてください。

●千葉 勝君 次に、行政執行体制を確保する具体的についてお伺いいたします。

厚谷市長の選挙公約の一つに行政の自立があります。具体的には、行政の持続化と安定化に向けた職員確保と体制構築、そして適切な判断と柔軟な対応による行政サービスの提供です。この公約実現に向けて、市長就任後に市民生活を支える行政運営の安定的な持続のために体制の確保が喫緊の課題であり、職員数の見直しと職員給与の改善について必要な見直しを行うべく検討を急ぐと申しております。行政執行体制の確保について検討を急ぐとしながらも、市長就任後の所信表明から2年を経過した中で、必要な職員数の算定についてどの程度進んでいるのかについてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員のただいまの行政執行体制を確保する具体的計画に関するご質問にお答えをいたします。

まず、職員数の見直しに係る必要な職員数算定の進捗状況でございますが、昨年、夏に全職場の所属長を対象といたしまして、行政執行体制に関するヒアリングを行っております。各部署における不足人員の聞き取りを行ったところでございます。

また、並行いたしまして、時間外勤務を含めました職員の総労働時間数につきましても、職場ごと、年度ごとの分析を行っているところであり、令和4年度より再任用職員が大幅に増える見込みであること。一つ、逆に令和8年度末に北海道からの派遣職員数が大幅に削減となる予定であり、現段階的なプロパー職員の切替えが必要であることといった状況も総合的に勘案をしまして、今後の行政執行体制の協議をこの令和3年度中に国、北海道と進めるべく、基礎資料を鋭意作成しているところでございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問はございませんか。千葉議員。

●千葉 勝君 令和3年度中に国並びに道と三者協議を行っていききたいという方向性であると理解しております。

次に、財政破綻以降、定年前に退職する若年層職員の人材流出が毎年出ていると認識しております。令和2年度も4名が定年前に退職すると聞いております。市長が所信表明で言われた、行政運営の安定的な持続のためには新たな採用も必要であります、今いる職員が安心して働ける環境づくりも必要と考えます。

そこで、職員数の見直し並びに職員給与の改善を含めた、中途退職者の防止に向けた具体的な対策についてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えをいたします。

職員の普通退職、いわゆる中途退職でございますが、議員ご指摘のとおり、毎年度数名生じており、執行体制確保の面からも課題であるということを感じております。私が承知している限り、退職の理由は様々でございますけれども、職員が安心して業務に取り組むための職場環境の改善につきましても、メンタルヘルス対策や、職員育成方法の充実を図るとともに、さきに申しました執行体制確保に向けた協議を進めていきたいと考えております。

また、ご質問のございました職員給料につきましても、現在、財政再建のため、一律7%の削減を行っておりますけれども、削減率改善のための協議を国、北海道と継続して行っていく考えであります。

なお、言うまでもございませんが、職員数の見直し、職員給与の改善、いずれも本市財政再生計画の趣旨を踏まえるとともに、財源の確保が必要であり、それを踏まえた協議となることを申し添えさせていただきます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
千葉議員。

●千葉 勝君 この職員数の見直しやら職員給与の改善というのは、検討するに当たりまして関係団体との協議は行われておるのかどうかについてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

さきに行いました本市の職員労働組合との協議におきましても、自立した行政執行体制の確保という要求をいただいていたところでございますが、ただいま千葉議員にお答えをいたしましたものと同様の趣旨の回答をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
千葉議員。

●千葉 勝君 再生団体からの、脱却は出てきたと思いますが、行政運営の安定的な持続のためには人材育成と人材確保が喫緊の課題だと考えております。

また、今後、若年層職員の中途退職者を出さないための具体的な対策、職員数の見直し並びに職員給与の改善の具体的な検討をよろしくお願い申し上げます。

続けてよろしいですか。

●議長 小林尚文君 進めてください。

●千葉 勝君 次に、教育行政執行方針について教育長にお伺いいたします。

最初に、基礎学力底上げについてお聞きします。

夕張市の小中学校の学力は、これまでの全国調査や各種テスト等から全国全道平均に至っていないという結果が明らかになっています。そこで、令和2年度は基礎学力の底上げのため、道教委の加算措置を使い、チーム・ティーチングを実施していると認識しております。令和3年度においては少人数習熟度別授業など、個に応じた指導の徹底を実践してい

くの方針です。少人数指導は、教師1人に対する児童生徒の数が減り、一人一人の実態が把握しやすくなるというメリットがあると考えます。

そこで、少人数習熟度別授業を実践するための具体的指導体制についてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君（登壇） ただいまの千葉議員の基礎学力底上げについてのご質問についてお答えいたします。

本市における小中学校の児童生徒の学力向上につきましては、議員が今申し上げていただきましたとおり大きな課題であるということ踏まえ、効果的な授業体系の在り方を追求していかなければならないと考えております。

そこで、この習熟度別授業につきましては、議員もご承知のとおり、学級を2グループに分け、同じ単元を学習しますが、別々のコースで学習を進めるものであります。令和3年度は、小学校、中学校とも教員の定数加配等により、一定の指導体制が確保されたことから習熟度別授業の実施が可能となりました。小学校におきましては、4年生、5年生、6年生の算数で、中学校におきましては、全学年の数学において、この習熟度別授業を実施して参りたいと考えております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

●千葉 勝君 ありがとうございます。

次に、小中協働の強化に向けてについてお伺いいたします。

令和3年度も小中連携学力向上プロジェクト委員会の活動の促進並びに充実を通して乗り入れ授業を実施していくの方針であります。具体的な実施方法等についてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 次に、ただいまの千葉議員の小中協働の強化に向けてのご質問にお答えいたします。

本市におきましては、小学校、中学校が1校とい

う利点を生かし、連携を密に図っていくことで児童生徒の学力向上が系統的かつ効果的に進められていくとの基本的な考えに立って、小中連携学力向上プロジェクト委員会、通称ゆうプロを組織いたしました。既に、令和2年度内に本委員会において具体的な活動も実践されているところですが、令和3年度に当たっては、乗り入れ事業の実施を目指していく所存であります。

この乗り入れ事業ですけれども、具体的にはまず、特別の教科道徳の授業について実施する計画です。中学校の教師が小学校に出向いて、小学生を対象に望ましい人間関係づくりですとか、思いやりの心を育む授業を行うとともに、反対に、小学校の教師が中学校に出向いて、小学校させた児童が中学生となっているわけですから、成長した子どもたちの姿を確認しながら、今度、中学校卒業後、あるいは高校卒業後の将来に向けての夢や希望を実現させるために頑張っていこうと、そういったような授業を行うということを考えております。

また、これとは別に、小学校6年生の児童が、例えば小学校6年生の児童が中学校に登校して、中学校の校舎で1日勉強すると、学習を行うと。その際、この小学6年生の一部の授業を中学校の教師が受け持つ、こういったような取組も検討していきたいと考えております。

こういった乗り入れ事業の実施は、児童生徒の学力向上ですとか、成長過程におけるケアなどにも効果を発揮するものと考えておりますし、教師のスキルアップにもつなげていけるのではないかなと期待しているところであります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 先日2月25日に夕張小学校6年生の総合学習の発表会、「つたえよう夕張の未来」の授業を議会で参観してきました。高齢者、少子化、子どもの学力のテーマの発表の中で、今考えているアイデアとして、小学校6年生が講師を雇って学力

向上のために学校に来てもらうという、そういう提案がなされました。令和2年度と令和3年度も少人数学級の実施が、先ほど教育長からご答弁がありましたように、道教委からの加配措置で行われていますが、この加配措置がいつまで措置されるのかについては明らかになっておりません。

そこで、財政再生団体であります夕張市で独自に教職員を雇用することは大変難しいと考えますが、子育て世代の定住、基礎学力の定着のために夕張市独自で教職員を採用することのご検討をよろしくお願いたします。

次に移ってよろしいですか。

●議長 小林尚文君 進めてください。

●千葉 勝君 次に、「ふるさとキャリア教育」についてお聞きいたします。

教育執行方針において、小中高一貫教育に関わり、令和3年度はマンツーマンオンライン英会話指導に加えて、「ふるさとキャリア教育」をスタートさせるとの方針ですが、具体的内容についてお伺いたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 次に、ただいまの千葉議員の「ふるさとキャリア教育」についてのご質問にお答えいたします。

新学習指導要領の総則におきましては、キャリア教育の充実を図るため、その内容の取扱いとして学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととされております。そのため、文部科学省から、児童生徒が活動を記録し、蓄積する教材としてキャリア・パスポートと呼ばれるものの作成のために例示資料及び指導上の留意事項等について示されたところです。

夕張市教育委員会におきましては、本市の子どもたち一人一人の社会的職業的自立に向けて、郷土に愛着と誇りを持ち、チャレンジ精神にあふれる人間として育つよう、必要な基盤となる資質、能力、態

度を培うキャリア教育の充実を図るため、ゆうばりっ子キャリア・パスポート明日へのかけ橋、これを作成いたしました。令和3年度におきましては、今申し上げたことを基本に据えながら、地域の教育資源の活用や人材、組織との連携によって小・中・高における地域学習ですとか、キャリア教育の充実を行う中で、身近な地域の理解を深め、ふるさと愛を育み、将来の町のことを考える意識の向上を図ろうとするものであります。

それで、具体的な学習内容につきましては、例えばこの夕張の歴史や文化、風土をはじめとして、自然や地質、経済や福祉、観光交通、さらには市民の暮らしの現状や課題について、それぞれ小学校1年から6年まで、中学校1年から3年まで、高校1年から、12年間を通してその学年の段階に応じて、今言ったようなことを学ぶとともに、あるいは様々な分野における専門家の方々を招聘して、夕張発見学習等の実施を通しまして、持続可能なまちづくり夕張再生を考える取組、こういったようなものに結びつけていきたいと考えております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 ただいま、教育長、新学習指導要領でという、そういうあれがあったのですけれども、これは小学校が今年から新学習指導要領が始まったのですけれども、今までは小・中学校ではキャリア教育というそういう学習指導要領の中にはなかったと思うのですけれども、これは新たに新学習指導要領に入れられたのかどうかについてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 キャリア教育におきましては総合的な学習の時間を通してそれぞれ小学校、中学校でこの学習指導要領に基づいて行われていたのかなと思います。今申しました新学習指導要領の総則においてという文言につきましては、先ほど答弁いたしました中にあるキャリア・パスポート、こ

れの作成について、平成31年か、具体的に年月は分かりませんが、平成31年4月あたりにこれを作成して、これを活用してキャリア教育の充実を図りましょうという通知が来ております。それを基に夕張市教育委員会として令和2年度中にこのキャリア・パスポートの名称が、ゆうばりっ子キャリア・パスポート明日へのかけ橋といたしまして、小学生用、中学生用、それから高校用も、高校は独自につくるものなのですけれども、一応ひな形をつくりまして作成をし、それぞれ児童生徒1人分配って、これを活用していこうということがこの新学習指導要領総則に書かれていると、そういうことになります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 それでは最後に、教職員の働き方改革、変形労働時間制の導入についてお聞きします。

教職員の時間外勤務を削減し、教材研究や子どもたちと向き合う時間を確保するなど、教師本来の職務に専念できる環境の構築は待たなしの状況であります。そのため、本年1月に校務支援システムを導入し、教職員の勤務時間の管理や成績処理などの校務を一元化するなど、本市における働き方改革を前進しております。その令和3年度もこの取組を前進させ、教職員の職務環境の向上を図って参りますとの方針であります。昨年9月の第3回定例市議会において、変形労働時間制の導入についての質問で、導入に当たっては北海道における関係条例の改正を踏まえ検討していくと教育長は答えております。

その後、北海道においては昨年12月、第4回定例道議会において、教職員の休日を長期休業期間等において集中して確保することを目的とした1年単位の変形労働時間制の制度導入に関し、必要な事項を定めるための条例改正が行われました。この条例改正で、本年4月から各自治体で1年単位の変形労働時間制の導入が可能となりましたが、北海道教育委員会は、制度導入は市町村教育委員会や学校の判断により選択できるものと言っておりますし、4月か



ら導入を見送る市町村もあると聞いております。

そこで、夕張市において4月からの制度導入に向けての検討状況についてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまの千葉議員の「1年単位の変形労働時間制」の導入についてのご質問にお答えします。

本件につきましては、ただいまの千葉議員のご質問の中にございましたが、令和2年第3回定例市議会一般質問の中でもお答えしたとおり、本市における教職員の勤務時間等に係る規定につきましては、夕張市立学校管理規則第12条にて、「北海道学校職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び規程の定めるところによる」とうたっております。したがって、これも今、千葉議員からご指摘がございましたけれども、北海道におきましては、さきの北海道議会におきまして、1年単位の変形労働時間制度導入に係る条例改正が行われたと。これについては十分承知をしているところであります。

しかし、本市におきましては、この制度導入に当たっては、内容を教育委員会、事務局をはじめ、教職員がしっかり熟知することはもとより、課題点なども整理した上で教育現場と十分な協議を行っていくことが重要と考えており、現在その協議に向けての、今申し上げましたこの制度の十分な理解を図るといったようなことなど、前段作業に取り組んでいる状況でございます。

また、管内をはじめとして、他市町における実施状況なども踏まえる必要があることから、そういったようなことも調査を進めていかなければならないものと考えており、現在はそういったような検討段階にあるということでございます。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 制度導入については今、検討の段階であるというご答弁だと思います。

これまでも夕張市教育委員会においては、教職員

の時間外勤務の縮減について様々な取組を行ってきたということは私が認識しておりますので、今後とも少なくとも時間外勤務等の時間が上限となるように取組をお願いいたしまして、私の質問を終わります。

●議長 小林尚文君 以上で、千葉議員の質問を終わります。

次に、高間議員の質問を許します。

高間議員。

●高間澄子君（登壇） 高間澄子でございます。

通告に従い、市政執行方針のまちの魅力を磨くについて質問をいたします。

今や道の駅はその町の魅力がいっぱいの、見ても食べても楽しい、行ってみたいくなる、いわゆるその町の顔であります。夕張にも北海道で111番目の道の駅メロードが開設されて、今年ちょうど10年の節目を迎えます。今あるものに感謝をし、さらに育てていこうとの気持ちをなくしては、魅力は生まれては来ないものだと思っております。

また、2018年の胆振東部地震でトイレ等が破損撤去され、この間、JR北海道のご厚意によりまして、新夕張駅のトイレを開放していただき、今日に至っております。

しかし、何か魅力とは程遠い存在に思うのは私のみではないと思っております。市長は今回の市政執行方針で、道の駅夕張メロードについて、施設の機能の維持、強化を図り、道の駅としての魅力を向上させていくことは必要不可欠である。また、トイレの再整備を契機とした道の駅全体の魅力向上を図っていけるよう、関係機関とも連携し検討を進めるとの方針を述べておられます。市長のこの思いを、決意を、ぜひとも形にさせていただきたいと願うところでございます。財政の負担と地域活性化の折り合いをどのようにつけていくのか、市長の見解をお聞きしていきたいと思っております。

市政執行方針の町の魅力について、次の2点について質問をいたします。

1点目でございますが、「道の駅夕張メロードの

魅力向上」について伺います。

道の駅はオープン以来、道の駅そのものの魅力向上が課題であるとされています。今回、市政執行方針において、道の駅のトイレの再整備を契機とした道の駅全体の魅力向上を図っていくよう、検討を進めるとしています。魅力向上に向けて、具体的にどのように取組んでいくのか市長の考えをお伺いします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君（登壇） 高間議員の「道の駅夕張メロードの魅力向上」に関するご質問についてお答えをいたします。

「道の駅夕張メロードの魅力向上」につきましては、令和2年3月に策定いたしました、第2期夕張市地方版総合戦略においても具体的に取組む重要施策として位置づけており、機能の維持、強化を図りながら、道の駅としての魅力を高めていくとともに、夕張の魅力を伝える拠点として、情報発信の強化に努め、交流人口の拡大につなげていくこととされているところでございます。道の駅夕張メロードは、夕張の玄関口として魅力の発信や人と人との交流の核となるとともに、地域住民の生活を支える拠点となり得る大きな可能性を持った施設でございますが、そのためにはトイレの再整備をはじめとした課題の解決が必要不可欠であると考えております。トイレの再整備などハード面の整備につきましては、大きな財政負担を伴いますことから、現在、道の駅を所管いたします国の担当部署と連携を密に図りながら整備手法等について打合せを重ねてきているところでございまして、可能な限り早期に課題解決の道筋をつけて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

高間議員。

●高間澄子君 ありがとうございます。

道の駅に対する市民などの期待は相当程度大きいものと考えておりますが、市長の認識、そして及び課題解決への意気込みについて、改めてお伺いをい

たします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えいたします。

先月2月でございますが、開催いたしました市民との懇談会の場におきましても、道の駅の再整備については期待をするご意見、ご要望が数多くあったところでございます。

また、JR北海道や農協をはじめとする関係のみなさまからも、本件に対する市の対応については注目をされている状況でございます。私といたしましては、これからの夕張のまちづくりを進める上でも、道の駅の再整備は避けて通れない課題であると強く認識をしてございまして、関係機関と連携しながら課題の解決に向けて前に進めて参る考えでございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

高間議員。

●高間澄子君 ただいま前向きな答弁をいただきました。ありがとうございます。

道の駅のトイレについては、過去に一度修繕しようとした経緯がありましたけれども、見積りの精度や関係機関との連携がうまくいかず、立ち消えになった経過があると認識しております。厚谷市長には、ぜひ今度こそしっかりとした計画を立てて、関係者ともしっかり信頼関係を築き、連携しながら着実に進めていただきたいと思います。

また、課題としましては、トイレ以外にも土産品の種類が乏しい、また冬は食事の場所がない、観光バスなどの大型車の駐車スペースもない、こういう課題も挙げられております。私自身もこの課題に対して思うことは、今の路線バスは新夕張駅で迂回をしておりますので、市道、駐車場近辺の市道はあまり利用度は低いのかなとこんなふうにも思っておりますので、今のメロードの駐車場と市の駐車場をつなぐのも一つの考え方と、そんなふうにも思っております。

市長、ちょっと意見があれば言っていたいて構いませんけれども、突然なので私の意見として聞いていただいても結構ですけれども、もし市長意見があればお願いします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの高間議員の再質問でございまして、今後道の駅の再整備を進めていくに当たっての課題ということであるというふうに思いますけれども、具体的な内容の協議についてはこれから行っていくところではございますが、さきに答弁の中でも申し上げました夕張の玄関口であるということ。それから、魅力の発信、人と人との交流の核になる施設ということから申しますと、やはり紅葉山、新夕張という立地の中で、この夕張の北の方面にお客様を導く大きな場所という位置づけになってくると思います。その上で、やはり今後整備をするに際しましても、夕張の魅力の一つというふうに市外の方からよく評価をいただきますのが、夕張の人の温かさ、あるいは夕張の人とコミュニケーションを取ることによってまた訪れてみたいというご意見も承った経緯がございますので、例えば、そういったところ、市民の力、そういうものも活用できるような施設にしていくような検討も進めて参りたいと、そのように考えております。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。高間議員。

●高間澄子君 再質問はありません。市長、前向きな答弁、本当にありがとうございます。

次、2点目に行きたいと思います。

●議長 小林尚文君 進めてください。

●高間澄子君 夕張メロンの振興についてお伺いをいたします。

道の駅の集客にも大きく貢献している夕張メロンであります。その生産体制が年々縮小しており、産地の維持に向けた対策が必要であると考えております。生産体制を強化するため、生産基盤の確保、関係団体との連携を掲げておりますが、その具体的な進め方について市長の考え方をお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の、夕張メロンの振興に関するご質問についてお答えをいたします。

夕張といえばメロンと言われるほど抜群の知名度を誇る夕張メロンでございますが、まさに夕張の代名詞であるというふうに考えております。毎年多くの観光客が夕張メロンを求めて本市を訪れており、市内観光の振興や関連商品の販売促進はもとより、飲食店や商店等の売上げ向上など、地域経済を多岐にわたり支えていただいているものというふうに考えております。また、近年では市のふるさと納税の返礼品としても圧倒的な人気を誇るなど、財政再生中であり本市の財源確保にも多大な貢献をもたらす存在でございます。

一方で、議員ご質問のございました、夕張メロンの生産体制についてでございますが、農家戸数や作付面積などの急激な縮小が続いておりまして、生産体制の強化に向けた対策、これは急務となっているところでございます。こうした状況を踏まえまして、夕張メロンの安定生産体制を強固なものにするため、パイプハウスや客土等の生産基盤整備を行うなどの生産者に対する支援や、夕張農業サポーターの募集による市外からの雇用労働力確保、農村地域の防災・減災に向けた排水改良や農道用排水路の改修といった取組を関係団体と連携しながら計画的に推進して参りたいとそのように考えております。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。高間議員。

●高間澄子君 排水対策についてお伺いをいたします。

市内の多くの農業用排水路が老朽化していると聞いております。大雨などによる農地への浸水被害などが心配されますが、農地被害の防止に向けた排水対策を今後どのように進めていくのか市長の考えをお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問についてお答えいたします。

市内には整備後、相当の年数が経過し、著しく老朽化した農道や農業用排水路などが多数存在しております。これらの中には一部が破損するなど、緊急に改修が必要なものも増えているところでございます。

今年度におきましても、農地への浸水被害の防止に向け、沼ノ沢地区の排水対策や紅葉山地区の排水路の補修を農業団体と連携しながら緊急的に実施してきたところでございまして、今後も緊急性の高い箇所を優先しながら修繕、改修等の対応を適切に進めて参る考えでございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
高間議員。

●高間澄子君 ありがとうございます。

次に、雇用対策についてお尋ねしたいと思えます。

外国人の入国停止措置が続く中で外国人技能実習生の受入れが見通せず、メロン農家の雇用労働力不足が懸念されております。

これに対しまして、市長の現状に対する認識と対応についてどのように考えているのか、市長の見解をお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問についてお答えをいたします。

ただいまご質問をいただきました件につきましては、先般、農協の組合長さんともいろいろと状況把握をさせていただくため懇談をさせていただいたところでございますが、栽培管理の大半を手作業で行う夕張メロン、この生産にとりまして、雇用労働力の確保は重要な課題であります。現時点においては新たな外国人技能実習生の受入れの見通しが立っておらず、メロン農家にとって大変厳しい状況である、そのように受け止めております。こうした中、農家の雇用労働力確保に向けましては、市内事業所における雇用促進を図るという目的で、先月2月25日に開催しました夕張市合同企業説明会に農協にも

ご出店をいただきまして、個別ブースにおいて農家での仕事を紹介していただきましたほか、一昨年度から受入れを行っております夕張農業サポーターについて現在募集を行っているところでございますけれども、本年は求人検索エンジンの活用など、募集方法を工夫することによりまして、既に例年以上の応募や問合せを受けているところでございます。

市といたしましては、今後も農業団体と連携しながらメロン農家において、一人でも多くの雇用が確保できるよう力を尽くして参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
高間議員。

●高間澄子君 新型コロナウイルスの蔓延がまだかつて収まらない。また、ワクチン接種の期待もある中、ワクチンの十分な量の供給がないという。また、先日のオリンピック委員会のコメントされた方は、海外からの観客を入れずに開催の予定もあり得るなどの意見もあります。このようなことから、海外からの実習生は望めない。働き手の確保ができなければ、なお一層、作付面積の縮小にもつながりかねないところでございます。

また、今月の2日に大雪で雪下ろしの手が足りず、農家のメロンハウス34棟の倒壊の被害を受けましたけれども、労働力が見込めない中においては秋まで手をつけられないところまできております。夕張の基幹産業と銘打たれているのであれば、代表して市の職員の研修という位置づけでメロンについて勉強するなど、町全体でできることを考えていかなければいけないときなのかなと、こんなふうにも思っております。

また、先ほど市長の答弁にもありましたけれども、今年の農業サポーターの募集が好調と聞いておりますけれども、市の受入れにも限りがあるものと思っております。

また、農協本部の営農課も手をこまねているわけではなく、派遣業者の説明会を今日の午後から行う予定になっていると、こんなお話もございました。

結果としてよい結果を得られることを願うところでございます。

再質問を続けてよろしいですか。

●議長 小林尚文君 進めてください。

●高間澄子君 それでは、次の再質問についてお伺いします。

財源についてお伺いをいたします。

次年度以降も対策を継続する、この必要があると考えておりますけれども、どのように継続していくのか。

また、財源についてはどうしていくのか、この点について市長の考えもお尋ねいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の、これら事業を実施するための財源に関するご質問にお答えいたします。

議員ご指摘をいただきましたとおり、夕張メロンの安定生産体制の構築に向けましては、取組は継続的に行っていく必要があると考えております。事業の継続に向けては、財源の確保が課題となりますが、昨年からは企業版ふるさと納税による支援について協議を続けておりました株式会社ツムラ様から、このたび承諾を得たところでございます。株式会社ツムラ様からは、令和3年度から令和6年度までの4年間、総額6,000万円のご支援をいただく予定となっております。貴重なご寄附を有効に活用させていただきながら夕張メロンの安定生産体制を強固にするための取組をこの間、集中的に行って参る所存でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。高間議員。

●高間澄子君 ありがとうございます。

財政措置についてでありますけれども、夕張メロンの生産安定に係る取組を継続的な取組とするためには、今後、一般財源による財政措置も必要と考えているところでございますけれども、市長の見解をお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問についてお答えいたします。

今後の継続的な取組をするための財源の確保に関して一般財源による財政措置も必要と考えていただいているということでございますが、夕張メロンは本市の農業算出額の9割を占める重要品目であることに加えまして、雇用の創出、市内関連産業の発展、観光の促進、市財政への貢献といった観点からも、本市にとってなくてはならない存在でありますことから、今後も安定生産に向けた取組は継続して行っていく必要があると考えております。

一方で、取組のためには財源の確保が必要となつて参りますことから、財政の状況等も勘案しつつ検討して参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。高間議員。

●高間澄子君 以上をもちまして私の質問は終わりますけれども、質問に対しまして市長からの答弁を数々いただいて参りました。その中で、一つ一つ形となるようスケジュール感を持っていただいて市長の努力に期待をいたしまして、私の大綱質問を終わります。ありがとうございました。

●議長 小林尚文君 以上で、高間議員の質問を終わります。

次に、今川議員の質問を許します。

今川議員。

●今川和哉君（登壇） 今川和哉です。質問を通告しておりますとおり、私からは市長の市政執行方針における、「まちの将来像を描く」について質問いたします。

最初に、コンパクトシティゆうばりについて質問いたします。

本市のコンパクトシティ計画は、まちの限られた資源を集中し、市の中心部に公共施設等をつくりながら中心部への移住を促し、持続可能な都市を実現しようというもので、平成24年にその基本的指針が策定され、集約型の都市計画が進められて参りまし

た。急速に人口減少が進む中、広い行政範囲を有する本市が、都市の規模と人口の不整合による様々な課題を解決するため、都市の集約、コンパクトなまちをつくっていくという趣旨には当然賛同するところです。

しかし、全国でも複数の自治体がコンパクトシティ都市の集約に取り組んでいる事例がありますが、なかなか行政が思うとおりの成果を上げられている自治体は少ないように思われるのが現状です。本市のコンパクトシティ計画は、まだ道半ばであり、市民にとって本当にためになるまちづくりができるかどうかは、これまでの事業効果の検証と今後の事業構築にかかっていると考えます。

そこで、市長に質問いたしますが、本市においてコンパクトシティを推進するための事業や、これまでの取組の効果と、今後の課題についてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君（登壇） ただいまの今川議員のコンパクトシティゆーばりに関するご質問にお答えをいたします。

コンパクトシティの推進につきましては、これまで清水沢地区の市営住宅再編事業により、市営住宅の管理戸数の減と、当該地区における入居率の向上及び真谷地地区における市営住宅集約事業により、浄化槽3か所廃止に伴う維持管理コストの減などの効果があったところでございます。

また、南清水沢地区を中心に、転入者の居住の確保のため、民間賃貸住宅の建設促進施策を実施したことによりまして、本市の過去10年間の人口減少率が市全体で約31%でありましたのに対しまして、南清水沢地区は約10%と人口減少の抑制に効果があったところでございます。

令和2年3月1日には、拠点複合施設「りすた」が供用開始されたことによる交通の結節機能の強化、市民活動交流の拠点施設として役割を担っております。

今後の課題といたしましては、市制施行方針でも

述べさせていただきましたが、まちの将来像である、安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆーばりの実現に向けて取組を進めているものの、想定を上回る速さで進む人口減少、公共施設やインフラの老朽化による利用者の利便性や安全性確保の必要性と行政コストの増加が見込まれること。そして、市内で土砂災害の危険性が高い区域が多数指定されていることへの対応といった課題がございます。これらの課題に対応する方針を定めるため、市民のみなさまや有識者により組織をいたしました計画策定委員会の意見をいただきながら、令和2年度に夕張市まちづくりマスタープランの改定と公共施設などの都市機能や居住環境の充実誘導を図るための指針として、夕張市立地適正化計画の策定をしたところでございます。

課題の解決に向けまして、令和3年度にインフラを含む公共施設全体の老朽化対策とともに、都市機能の具体的な施設に関する方策や拠点地区の形成に向けた検討を行って参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
今川議員。

●今川和哉君 再質問を行います。

答弁にありましたとおり、市営住宅の再編や交通体系の整備、拠点複合施設「りすた」の整備、また、今後の診療所の新設、これらが一段落ついたところで今後考えなければならないのは、市役所庁舎の問題ではないでしょうか。庁舎は多くの市民が立ち寄り、働く職員も多い市役所という施設です。まちづくりの観点から見ても、庁舎建物の耐震性という市民、職員の安全面から見ても、この問題は避けられない課題である、そのようなことは明らかだと思われませんが、この庁舎の問題についてはどのように考えているか、市長にお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の再質問にお答えいたします。

ただいま議員からもご質問ございましたこの市役

所本庁舎でございますけれども、建設後43年を経過しているほか、耐震性能が基準値を下回っており、震度6強から7の大規模地震の発生により倒壊の可能性が高いとされております。平成30年9月に発生いたしました北海道胆振東部地震により、近隣自治体が甚大な被害に見舞われたことを踏まえまして、本庁舎耐震化につきましても現庁舎の耐震工事が改築化について、一定の方向性と対策のためのスケジュールを検討して参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
今川議員。

●今川和哉君 答弁において、庁舎の耐震化または改築ということで検討されている、検討を進める可能性があるというような答弁かと思いますが、市庁舎の耐震化というものはちょっと現実的ではないかなという印象を受けるものですが、この庁舎を耐震化するという考えもあるということではよろしいでしょうか。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の再質問にお答えいたします。

庁舎の耐震化につきましては、ただいま議員のほうからお話ございましたとおり、一つの方法として、いわゆる経費の算定等も行わなければならないわけですから、そういった中でこの本庁舎の耐震化ということについても検討をしていかなければならない、そのように考えております。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
今川議員。

●今川和哉君 現在この庁舎があるのはこのまちの北側というところで、市の中心部に公共施設等をつくるというコンパクトシティ計画からも少しずれるのかなという印象を受けるところです。この庁舎を耐震化するのか、それとも移転によって中心部に公共施設等を集めていくのか、これらの指針がつくられる今後のスケジュールとしてはどのようなものになるとお考えでしょうか。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の再質問にお答えをいたします。

ただいまご質問をいただきました今後の検討のスケジュール感でございますけれども、これは今後のことになりますので現段階ではまだお答えできる状況にはございませんが、少なくとも、まず市役所の中で耐震化、それから改築という方向に向けてどのような準備が必要かということの作業というものは進めていかなければならないときが来ているというふうに考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。  
今川議員。

●今川和哉君 では、次の質問に移ります。

続いて、居住の誘導について質問いたします。

夕張市まちづくりマスタープラン等の都市計画においては、都市拠点以外の地域内再編地区ごとに市街地のコンパクト化を図り、人口減少地域から生活利便性が高い都市拠点への住み替えを誘導することが進められてきました。また、それに加え、先ほどの質問の答弁にもありまして、安心して暮らせるコンパクトで効率的なまちを目指すため、新たに立地適正化計画が策定されております。こういった計画により、市内における人口が減少する地域内再編地区と土砂災害の危険性が高い区域については、執行方針にも記載があるように、今後居住誘導を行っていくものと考えますが、それぞれの地域について具体的にどういった対策にて居住を誘導することを検討しているのか、お聞きいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の居住の誘導に関するご質問にお答えをいたします。

まちづくりマスタープランの見直しによりまして、人口減少が進む本町、南部、真谷地、楓、登川地区につきましては地域再編地区と位置づけ、現在の居住者に対しましては生活サービスの保管やコミュニティ機能の充実を図り、安心して暮らし続けるこ

とができる地区を形成することを指すとともに、住み替える場合には、生活利便性の高い拠点地区への誘導を図っていくこととなっております。

また、夕張市の市街地には、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が多く指定されております。まずは地域の防災意識を高めるために、消防職員による防災講話や避難訓練などを取り進めて参る考えでございます。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

今川議員。

●今川和哉君 答弁にありましたとおり、コミュニティーの再築、再編ということで、今までは公営住宅を中心とした集約、取り壊した公営住宅からの住み替え、そして再編地区の公営住宅への入居を制限する政策空き家、こういったどちらかという再編地区に入居者を増やさない受け身の事業が基本方針であったのかなと感じています。しかし、この広い行政範囲を持つ夕張市で人口がさらに減っていく中、このままでは税収が減りつつも市の管理負担の割合が拡大していくことが危惧されるところです。

例えば、当市は水道代が高い自治体として悪い意味でニュースにて取り上げられることが多くあります。これは広い居住範囲の隅々まで水道管を張り巡らせる必要があるという維持費が原因の一端にありますし、市道の管理や除排雪も委託先やマンパワーの面でいつまで持つか分かりません。現に今季の大雪の日などは除排雪が間に合わない市道があったのではないのでしょうか。

今までのこういった市営住宅を中心とした地域内のコミュニティーの集約から発展させ、より中心部への移転にインセンティブを与えることや、居住先の受皿を用意するなど積極的な居住誘導を行いインフラの管理費を抑制していく攻めの居住誘導が今後必要ではないかと考えますが、市長の考えを伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の再質問にお答え

いたします。

インセンティブをつけた移転の促進というのは一つの手段と思いますが、地域住民と対話を重ねながら今後検討して参りたいとそうように考えておりません。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

今川議員。

●今川和哉君 私が提案したのは一例ですので今後考えていっていただきたいと思うものですが、こういった新たな政策を進めるためには、対象地域の居留意向だとか引っ越しの意思の調査、また、人口がその地域にいなくなった場合、どの程度インフラの管理費用が削減できるかの算定を行うべきですし、数値目標を定め、市道や水道管の総延長距離の縮減を目指す、こういった数値目標の調査をしていくことも必要かなと思いますが、市長の考えを伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の再質問にお答えいたします。

現段階ですぐに、ただいまご指摘をいただいたことに着手するという事は申し上げられないわけですが、当然のことながらコンパクトシティを目指していく本市にとって、ただいまご指摘のありましたような、居住区域の状態が変わることによってどれだけの、いわゆる管理コストの削減が図れる、あるいはそこからさらにお住まいの方が少なくなった場合に、それはその行政という公共サービスの中でどこまで住民のみなさまにお応えできる対応ができるのかできないのか、そういったこともお示しするという事は非常に重要なことだと考えておりますので、ご意見として承りたいと思います。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

今川議員。

●今川和哉君 再質問ではございませんが、地域に住み続けたいと考える人はいるのは当然ですし、これを否定できるものではありません。ですが、人



口減少により地域崩壊が目前に迫っている中、ただ新しい居住を制限するだけで終わっていいはずがなく、市民は市のプランを求めているのだらうと考えています。移転先の受皿はない今の場所に住んでいてもいいですよというような受け身の姿勢では、一見親切に見えますがその地域に住んでいる人にもインフラ維持のため税金を払っている全ての地域の市民に対して、なかなか誠実なものとは言えませんので、積極的な政策を求めることを私としては提案いたします。

そこで、次の質問に移ります。

都市機能の集積、拠点地区の形成について質問いたします。

交通拠点また交流拠点の機能としては、昨年、南清水沢に拠点複合施設「りすた」が供用開始されたところです。しかし、「りすた」によってバスの待ち時間に買物や食事をしようと考えたとき、現在それほど選択肢がある状況ではなく、将来的にも民間企業が「りすた」の集客を想定して新規に出店計画を行うことができるかと考えても、いまだ現実的にハードルが高いように思われます。都市機能の集積、拠点地区の形成と言えるためには、商業的機能が欠かせないもので、そのためには積極的な市の動きが重要だと考えます。都市拠点の形成による新たな雇用の創出や、中心部拠点地区への市内企業の移転や、新規創業を目指すための施策が必要であると思われませんが、これについて市長の考えを伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の都市機能の集積及び拠点地区の形成に関するご質問についてお答えいたします。

令和2年度に見直しを行いましたまちづくりマスタープランでは、今後20年間、一定程度人口の残る若菜、清水沢、紅葉山地区を都市機能及び居住機能が集積する拠点地区と位置づけ、医療や商業、観光、交流、教育、子育て支援などの市内の生活や交流を支える都市機能や居住誘導を図り、生活利便性の高い拠点を形成するということによりしております。今後、

拠点形成を効果的に進めていくために、まずは来年度、令和3年度でございますが、マスタープランの考え方に基ついた拠点地区の具体的な地区構想を検討しますことから、そうした方針も踏まえまして地区ごとの特性を生かしていけるよう、様々な可能性について今後とも検討して参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

今川議員。

●今川和哉君 答弁においては、今後都市拠点を形成していくためにマスタープランに基ついた地区構想を検討していくという答弁がございましたが、この検討方法について現在どのように考えているかお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 ただいま今川議員から再質問をいただきました、今後地区構想を検討するに当たっての検討方法ということでございますが、この令和2年度まちづくりマスタープランの改定を行いましたけれども、それとほぼ同様な形を考えてございます。一つは庁内、いわゆる市庁舎内における検討。それから市民の方からご意見をいただく場、その市民の方々につきましても幅広い年齢の方からご意見をいただきながら、この検討を進めていきたい、そのように考えております。

具体的な検討方法の時期等につきましては、新年度になりまして、またご案内を差し上げたいとどのように考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

今川議員。

●今川和哉君 今答弁いただいた庁内や市民から検討チームをつくるという答弁かと思っておりますけれども、この検討チームにおいては、どの地域に、どういった施設があるというか、民間企業の誘致という点も含め検討されることとなるのかどうかお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 今川議員の再質問について  
お答えいたします。

まず、その地区構想の検討の内容の部分でございますが、これにつきましては新年度になりまして改めてその検討していく内容について整理をさせていただきながら取進めて参りたいというふうに考えております。その中でございますけれども、先ほどご質問をいただきました中でも出ておりますが、特に老朽化が進んでいる公共施設、そういったものについては、市が主体的に内容を確認する中で、市民のみなさんにもその在り方についてご検討をいただく、そういったプロセスを踏んでいくことになろうかというふうに考えております。

●議長 小林尚文君 再質問ございませんか。

今川議員。

●今川和哉君 再質問ではございませんが、まちの将来像を市民にとってよりよいものとしていくため、行政と民間の協働が欠かせないものと考えています。商業者、民間企業の指針となる市のプランを示していただけるようお願い申し上げ、これにて私の大綱質問を終了いたします。

●議長 小林尚文君 以上で、今川議員の質問を終わります。

以上で、通告されました質問は全て終了しましたので、これをもって大綱質問を終結し、直ちに本9議案については行政常任委員会に付託をいたします。

お諮りいたします。

ただいま付託いたしました各議案については、会議規則第45条第1項の規定により、3月19日までに審査を終えるよう期限をつけることにしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

したがって、そのように決定をいたしました。

●議長 小林尚文君 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

---

午前11時56分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 小林 尚文

夕張市議会 議員 今川 和哉

夕張市議会 議員 君島 孝夫